

## 金賞

海外で伝えた「現地現物」の大切さ

株式会社デンソー 大安製作所

加藤 賢二

入社から約9年が過ぎ、徐々に後輩へ指導する機会が増えてきたある日、上司から「海外へ1年行ってみるか？」と突然の提案。不安と期待を抱えながらも長期海外赴任というチャンスに「行きます！」と即答した。赴任先では未だ半自動設備が多くを占め、私が入社したときのような工場の風景をしていた。赴任してすぐに現地保全スタッフ育成の機会を得た私は、担当者の中でもやる気・責任感が人一倍強いベラさんに目をつけ指導を行うことにした。しかし彼は私と同じ保全経験年数でプライドも高く、赴任したばかりの私の指導は受け入れられないことも多く、日本のモノづくりを伝える難しさを痛感し試行錯誤の毎日を過ごしていた。

そんなある日、慢性的なケーブル断線の再発防止策を行う改善工事を彼に任せた。後日「改善案を考えたので部品を手配します！」という彼に「元の寸法を事前に設備で確認しなくて大丈夫？」と聞くと、自分で考えた新構造に自信満々の彼は「図面で確認したので大丈夫！」と答えた。「念のために改造部位を『現地現物』で確認しよう！」と促すも「必要ないのに…」と言わんばかりの不満げな表情。「よし、今回はやり方を変えてみよう！」そう考えた私は過去に自分が「現地現物」の大切さを学んだときの経験を話した。当時の私は入社3年目、ある程度の保全作業が一人でできるようになってきたある日、先輩に「そろそろ改善工事をやってみるか？」と搬送部の構造変更を行う工事を頼まれた。それまでは、日々の突発故障対応に追われ修理ばかりだったため「構造を考えて改善する」という1つレベルの高い仕事ができる機会を喜んで引き受けた。設備図面を見て寸法を確認、新しい構造を考えた。後日手配した部品が続々と納品され、作業場で部品の組付けが完成。「よし、準備完了！」とそのまま意気揚々と工事の日を待った。しかし、工事当日、設備を分解してみると用意していた部品の寸法は現物と大きく違っており急遽部品の製作・修正が必要となった。想定外のことに焦り、自分では解決ができず先輩の助けをもらいなんとか工事を完了させた。しかし、当時の私は自分のミスではなく、図面が違ったことが問題だと不満を感じ、先輩に「図面が現物と違ったのです。製作メー

カに騙されましたよ」と愚痴をこぼした。しかし、同情してくれると思っていた先輩からは意外な答えが返ってきた。「今回は、大変だったな。でも、あれだけ寸法が違っていれば気づけたんじゃないのか？事前に改造部位の寸法は確認したか？自分の目で確認して責任を持つ。それが『現地現物』だぞ！これは、修理のときも同じ。人の責任にしている間は一人前の保全マンになれないぞ！」と厳しい言葉。図面だけを見て実際の設備を確認せずにメーカーの責任にしていた自分の甘さを痛感。そのとき「現地現物」の大切さを学び意識が変わったことを話した。この話を聞いた彼は少し納得した表情を見せ、「わかったよ」と図面を片手に設備を確認しに行った。しばらくすると「危なかった！プレートの寸法が図面と少し違っていました！でも事前に気づけて良かったです。『現地現物』って大切ですね！」とうれしい一言。無事に工事も完了し、その後も彼は改善を積み上げる中で保全マンとして成長していった。

それからしばらく経ち私が日本へ帰国した後、彼は現地の新設ラインのプロジェクトリードとして日本に出張に来た。設備仕様検討の段階から入り、「自分たちの設備」としての意識・責任感を持ち保全キーマンとして立派に立ち振る舞う彼と話す中で「加藤さん！日本の類似設備も自分の目で見てみたいです！『現地現物』が大事だからね！」と微笑む彼に保全マンとしての大きな成長を感じ、彼との信頼関係が深まったことに喜びを感じました。今後も「現地現物」をはじめとする日本のモノづくりを大切にしてグローバルに TPM 活動を活性化していこうと奮起しています。